

述べている。

困難な完熟堆肥施用

現代の農業ではどのように有機物補給を行えば良いのだろうか。完熟ないし中熟の堆肥を施用することは望ましいが、必要量を農家で生産することや購入することは困難な状況にあるし、散布するにも多くの時間と労働力が必要である。

高機能をつたった土壌



野生種エンバク

改良資材や微生物資材も販売されているが、過大な宣伝を行っている場合も多い。さらに高価である上に有機物補給の観点からも大面積に多量に施用することはできない。

そもそも有機物が消耗して体力（地力）が低下した圃場では、カンフル剤のような資材を利用しても効果は乏しいし、土壌有機物レベルを維持するという目的には適して



クリムソクローバー

いない。

また高価な資材を使えば農産物の価格は高くなり、有機農産物または有機資材を使用して生産した農産物を一般消費者が購入することが困難になる。

圃場への有機物還元を進めるためには、農家からの収穫残渣、畜産農家からの家畜糞尿や一般消費者からの生ゴミなどの有機物資源を有効利用するシステムを構築するこ

とが必要である。

生態系の多様化図る

他方、緑肥の栽培は農地の生態系に多様化をもたらし①病虫害の防除に貢献する②圃場内で栽培することにより、容易に有機物と養分の補給がで

きる③土壌中の微生物活性を高め、菌根菌や根粒菌などを増やす④休閑期間中の栽培により連作障害を防止できる⑤地表の被覆によって土壌侵食を

防止できるなど、多くのメリットを持っている。

緑肥は、現在ではほとんど種苗会社によって選抜育種されたものが利用されており、禾本科、マメ科、アブラナ科、キク科などの中から、バイオマス生産量、生育時期、生育の速さ、病虫害抑止能力、作物と競合しないこと、雑草化しないことなど、さまざまな基準のもとに優良な品種が育成されている。



レンゲソウ